

わかやま

No.10

和歌山県精神保健福祉センターだより 2002年1月

「麦の郷と地域住民は良き隣人として」

和歌山県人権教育啓発推進委員
社会福祉法人一麦会「麦の郷」執行理事 伊藤 静美

敢えてこのような文章を披露するのは面はゆい気も致しますが、麦の郷と地域の方々とは、ごく普通の近所づきあいをさせて頂いております。例えば、近所にお葬式があれば受付等を手伝ったり、入院をしたと聞けばお見舞いに行ったりと、ごく当たり前のおつきあいです。

思い起こせば、麦の郷にも今から10年前頃には全国いずこも苦勞をしている地域摩擦がありました。総論は賛成、各論となれば「ちょっと待て」との反対の声があがります。精神障害者問題の1つに住民の反対運動がその解決を遅らせています。

前述したように、麦の郷設立当時も、一部の住民からの反対運動の声に押しつぶされそうになった経験がありますが、偏見・差別は当然のことで住民の人たちは恐れを抱いていたとしても何ら不思議なことではありません。何故かというところ“精神障害者は何をかわからない人”まるで犯罪予備軍のように思われているからでしょう。このような知識しかもち得ない、いや、もたされていなかった住民の恐れは大いに私たちも共感できます。

そこで、私たちは住民自治会に加入し、自治会活動にも積極的に参画し、地域住民のニーズに沿った事業を起こしながら住民と共に喜びを共感してきたのです。1年に2回の交流会は、地区社協・連合自治会と麦の郷とが共催で、春はお花見、夏は祭り、西和佐地区住民の憩いの場となっています。今年で10回目を迎えるこの催しには関係行政の人たちも参加し、側面からのパートナーシップを発揮してくれています。今日では、交流会という名称も堅苦しく思ってしまうくらいに、ごく普通に西和佐地区の住民として溶け込んでしまいました。

いよいよ今世紀は、人権の世紀を迎えましたが、30年にわたる同和問題に向けた取り組みは本年3月に終わりを上げようとしています。人権問題や不当な差別は同和問題だけではありません。男女差別に始まり、子供・障害者・老人・特定の疾患患者（例 ハンセン病、エイズ等）への人権侵害、外国人差別など今なお私たちの社会には様々な人権侵害や差別があります。

* 世界人権宣言に謳われている最も尊い理念

“すべての人間は生まれながらにして自由があり、かつ尊厳と権利とについては平等である”

今後、麦の郷（障害者リハビリテーション施設）と近隣住民は、お互いに人権を尊重する社会づくりに育てられながら、共に歩んでいきます。そして、より良き隣人として私たちは微力ながら地区発展のために努力を重ねていきたいと考えています。

もくじ

- P 1 麦の郷と地域住民は良き隣人として
- P 2 特集 和歌山県内各地域の精神保健福祉業務連絡会
- P 3 ようこそ、みかん王国へ（湯浅保健所の活動紹介）
- P 4 あせらずゆっくりマイペース — 「青年の親の集い」 —
- P 5 メンタルヘルスニュース
- 和歌山県精神保健福祉協会入会のご案内
- 朝井所長のひとりごと
- P 6 は一とふるネットワーク「御坊保健所 吉岡範通さん」
研修のお知らせ

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

特集 和歌山県内各地域の精神保健福祉業務連絡会

	和歌山市	那賀	橋本・伊都	田辺・西牟婁	古座
名称	和歌山市精神保健業務担当者連絡会議	那賀郡内精神保健業務連絡会	伊都橋本障害者地域生活支援ネットワーク（伊都ネット）	精神保健医療福祉業務連絡会	新宮保健所古座支所地域精神保健福祉連絡協議会
開始年月	平成8年11月	平成7年7月	平成10年12月	平成9年7月	平成13年11月
開催回数 /年	2カ月に1回 奇数月に実施	2カ月に1回	2カ月に1回	基本的には2カ月に1回、その他必要に応じて開催	総会を年に1回開催 その他随時開催
目的	精神保健福祉に関わる実務者が集い、業務を円滑に進めるための情報交換や理論の学習を行うことを目的とする	那賀郡内の精神保健に携わる関係者のネットワークづくりと交流	伊都地方における福祉関連団体の交流と連携強化	精神障害者やその家族が穏やかに生活できることを目的に精神保健福祉に関する普及啓発を図るため	精神障害者やその家族が穏やかに生活できるように、保健所を中心に関係機関が連絡協議を行うことにより、地域の普及啓発を図る
事務局	和歌山市保健所 精神保健福祉班	麦の郷岩出地域生活支援センター	橋本市憩いの家共同作業所	田辺保健所	新宮保健所古座支所
参加機関 参加職種	医療機関、社会復帰施設、高齢者支援センター、保健所、いのちの電話をはじめ多数の機関から医師、看護婦、保健婦、PSW、弁護士、指導員、相談員、ヘルパー、民生委員等	市町村保健婦、福祉施設職員、作業所職員、病院職員、保健所保健婦・PSW、家族会等	作業所、養護学校、保健所、クリニック、病院（紀北分院、紀和病院）、福祉施設等から関係者が参加	市町村、医療機関、社会復帰施設、社協、紀南雇用支援センター、保健所等から医師、保健婦、PSW、指導員等	各町担当課長・保健婦・事務職員、医療機関、社協、ハローワーク、警察、作業所、病院、保健所から関係者が出席
参加人数	30～50人	20人程度	22人	総会 77人 講演会 約150人 ケース検討会等では8～30人	20人
内容	学習会（時々のトピックスを取り上げて） 事例検討会 当事者・家族との話し合いや交流会（年1回）	学習会（各機関から活動報告等の話題提供）、事例検討会	学習会（各機関からの活動報告を中心に、タイムリーな話題や課題、問題等を話し合い、連携について討論する。	総会 講演会 ケース検討会 学習会（市町村移譲、ケアマネジメント等）	総会 実務者の研修 ケース検討会等

その他の特徴的なことや今後の展望等

○ 和歌山市

緩やかなネットワークづくりのために、非公式に実施している。社会資源が多いので、テーマにより様々な関係機関に参加を呼びかけ、ネットワークが広がっている。今後は、当事者・家族との話し合いを継続するとともに、新しい分野の機関とも連携をとっていき、精神障害者があたりまえの生活をするために何が不足しているのか検討していく。

○ 那賀

県内で最初に出来た業務連絡会で、非公式に実施している。那賀郡内の各町に家族会があるので家族の参加が盛ん。業務連絡会のネットワークから、岩出保健所が実施する自立支援ネットワークへつながっている。今後もネットワークを広げていく。

○ 橋本・伊都

非公式なネットワークで、福祉の一分野だけにとどまらない幅広い分野からの参加がある。今後は伊都障害者地域生活支援センターによる、総合的な地域生活支援ネットワークを構築していく。

○ 田辺・西牟婁

豊富な社会資源の公的なネットワークである。今年度は精神保健福祉法の改正に関連した問題をテーマにし、継続して検討していった。その中で、小委員会活動があり、テーマ別により深く掘り下げて検討し、業務連絡会の議題にのせている。今後は、精神障害だけでなく三障害をまとめてどのような取り組みが必要か検討していく。

○ 古座

立ち上がったばかりのネットワークであるが、公的なしつかりしたネットワークを築いていく。

今回の特集は、それぞれの業務連絡会の事務局の方にお話を伺いまとめたものです。

その他、御坊・日高地域では作業所では有志が集まって月1回学習会を開いています。それを業務連絡会と位置づけ今年度中に立ち上げようと考えられています。また、新宮・東牟婁地域でも今年度中に、有田・湯浅地域では平成14年度の立ち上げを考えている様です。このように和歌山県内の関係機関・関係職種のネットワークがどんどん広がってきています。

県下の保健所及び管内の紹介をして、9回目になります。今回は湯浅保健所です。
精神保健福祉相談員の栗田さんよろしく。

ようこそ、みかん王国へ

みなさん、「お元気ですか」？

今回は、みかん、あゆ、太刀魚と山海川の幸に溢れる湯浅保健所をじっくり「堪能」していただきましょう。

Q 湯浅保健所はどこにあるの？

海南からいくつかの暗く、長いトンネルを抜けると、平野部から山野てっぺんまで広がる、みかん、みかん、みかん、そのあいだを銀色にたおやかに流れる、鮎はねる有田川。その明るさに心も軽くなりませんか。

管内には、有田市、湯浅町、広川町、吉備町、金屋町、清水町の一市五町が個性豊かな地域を作り出しています。保健所はその中の湯浅町の高台にあり、建物としては県立保健所の中では一番新しいものです。すぐ横の公園の展望台に登れば、吉備、金屋、清水の山並み、湯浅湾、紀伊水道の海が見渡せます。

Q 保健所では、どんな「精神保健福祉」の活動してるの？

そうだよな。それを紹介しなければ。

〇こころの健康相談

嘱託医による所内での相談や、訪問を月4回（第1・2木曜日、第3・4金曜日）実施していますよ。

そこには、町や市の福祉担当者の方や、保健婦さんが同行していただける事もしばしばです。それと、日々のなかでは、精神保健福祉士や担当保健婦による専門相談や、家庭訪問も随時させてもらっています。（まずは、お電話くださいね）

〇家族のための学習会（家族教室）

こころに「病」や「障害」を持つ当事者の方々を一番身近で支え、ご苦労されているご家族に対して、年に2回～3回のシリーズで、「病」や「障害」についての正しい理解や、福祉制度についての学習会をおこなっています。学習ばかりが目的ではないですよ。「安心して集まり、自分のペースで本音を出せる」そんな「癒し」とくつろぎ、仲間作りの場でもあるんですよ。

〇教育関係者との定期的お話し合い

振興局内教育委員会の担当先生と保健所の家庭相談員さんをまじえ、月1回幼児期から青年期半ばまでの本人さんや家族、学校（教育機関）生活現場での「こころのケア」についてお話し合いを持っています。今後、市や町の関係者も参加してもらいネットワークを広げていくつもりです。

Q その他、市や町、病院の取り組みや連携は？

最初に書かせていただいたように、個別の相談やケアマネジメント、訪問（勿論、ご本人家族の了解のもと）については常に協力体制をとれるようになっていきます。また、町単独あるいは二つの町合同で実施しているデイケアや家族教室にも、できるだけ参加したり、保健所デイケア、作業所、自助グループが合同で地域活動を進めていけるパイプ役も担っています。五稜病院については医療面での連携はもちろんのこと院内デイケア、訪問看護との繋がりも確かなものになってきました。

平成14年4月1日からの精神保健福祉業務の市町村への移行（一部）についても、情報の提供や実務面への協力、加えて民政児童委員さん他多くの関係者や一般住民の皆さまへの働きかけをがんばって展開していきます。

まだまだ一杯紹介したいんですが・・・紙面の都合上（私の文才のなさ？）これでパソコンを打つ手をおくことにします。管内にお越しの際には是非「湯浅保健所」へお立ち寄り下さい。元気で明るい地元物産に詳しい保健婦と、動き出したら止まらない名物相談員がみなさんを大歓迎します。

おまちしてま～す。

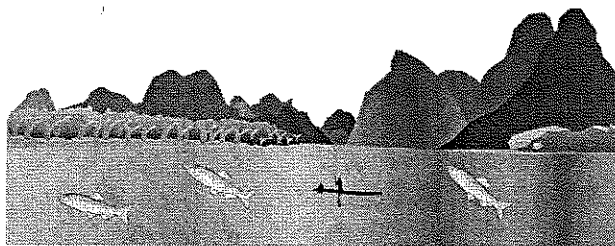


〇保健所グループワーク（デイケア）

毎月第1・3火曜日 10:00～15:00のあいだ、地域の仲間が集まって、料理作りや廃油利用の石鹸作り、モグモグ（手作り玩具）制作、畑での四季折々の作物栽培、レクリエーション等、利用者が中心になり、計画、実施しています。スタッフは生活に身近なメニューのなかで、個々のエンパワメントをお手伝いしています。

〇地域家族会活動、作業所運営のお手伝い

地域家族会「だるまの会」は、元気溢れる活動を展開しています。バザーや「ふれあい作業所」の運営を通じて、行政や医療、地域住民の方々への働きかけなど。保健所では月1回の家族会例会、作業所運営委員会同席、実際の地域活動の場（バザー、各会議や学習会）のお手伝いやコーディネートもさせてもらってます。



このコーナーでは、シリーズで県内の組織やグループの活動を紹介します。

ひきこもりがちになっている青年を子に持つ「青年の親の集い」

あせらずゆっくりマイペース

近年、思春期・青年期のひきこもりの問題がクローズアップされひきこもりについての悩みも多く寄せられるようになってきました。不登校も子どもの年齢が高くなると低年齢の時と違った不安や悩みが出てくるため、中学卒業以上の子どもを持つお母さんやお父さんの「青年の親の集い」ができました。

今回はその集いに参加し、みなさんのお話を伺いました。



○青年の親の集いとは、登校拒否の子どもを持つ和歌山市親の会に所属する、中学卒業年齢以上の子どもを持つお父さんやお母さんの集まりで、独立した団体ではありません。毎月第2土曜日19時30分から、和歌山市教育相談センターで会合を開いています。毎回和歌山市内から10人位の参加者がいます。親以外に教育相談センターの相談員の先生や Forest (フォレスト) のメンバーが参加し、悩みや対応について話し合ったり情報交換をしています。

○ Forest (フォレスト) は、20歳代の学生・社会人ボランティアのメンバーを中心に10歳代の青年たちも加え、家庭訪問・イベント・居場所づくりを主軸の事業に位置づけ、平成13年9月から「ひきこもり・不登校」への支援活動を行っています。バザーやハートフルハウスと合同でキャンプをしたり、スキー旅行も企画しています。居場所としての作業所づくりにも取り組んでいます。この Forest (フォレスト) の活動が関西テレビのドキュメンタリー番組で紹介されることになりました。平成14年1月20日13:55より放送予定です。

○親の集いに参加することで得ることを代表の方にお伺いすると、「親同士話し合うことで、自分一人ではないと思え気持ちが楽になりました。子ども自身も、サークルに参加することで、苦しんでいたのは自分だけではない、仲間がいるということが分かり、気持ちが楽になったようです。また、様々な情報を得る機会にもなります。」とお話いただきました。

○精神保健福祉の関係者に伝えたいことについては、親の会にも多くの相談が寄せられ、なかには、どこへ相談して良いか分からないという相談もあります。相談機関のPRをして欲しい。教育相談センターの相談員の先生のバックアップや、研修等様々な情報を提供して欲しい。ひきこもりを支援する人材を増やして欲しい等の要望が出され、改めて関係機関の連携の必要性を感じました。

○集いには、様々な状況の方が参加されています。不登校から10年になる方、20歳代後半でひきこもって、1年という方、ひきこもりを乗り越えて出かけるようになってきたという方、お父さんもお母さんもそれぞれに様々な思いを抱えながらお話をされていました。初めて参加された方には、「自分たちもそうだったよ、今になって冷静に分かるようになったけどね」とかつての経験を話されていました。同じ体験をしてきた者同士だから分かり合える、初めて参加し苦しみを受け止めてもらってホッとする気持ちを感じとることができました。親の居場所、明日の活力をためる場所として大きい役割を果たしていると感じました。Forest (フォレスト) の支援もあり、作業所が立ち上がりようとしています。

○今回、集いに参加させていただき、貴重なお話を伺いました。その中で、体験の中から得られたすばらしい言葉やお話を紹介します。

「しんどい時は、カウンセリングで言われたことが全て“がまん”でした。あるがままの姿を受け入れると言われても、親も期待を持っているので、表面的には受け入れたように振る舞っていても、内面的にはとてもしんどかったです。ある日ふっと楽になったという感じです。子どもが変わると親も変わる。今になってあのときの状態が客観的に分かるようになりました。子どもも「社会全体が真っ暗闇で先へ行くのに危険を感じた」とその当時のことを振り返ります。よそのことは関係なく、うちはうちやと思えるようになりました。過去より今を大事にしたいと思います。」

「ひきこもりは、貝が口を開けると同じで自然に開くまで待たないといけないんです。無理にこじ開けようとするとよけい固く気持ちを閉ざしてしまいます。」

「親と子の距離が近すぎるとしんどいよね、子どもがもたもたしているとなつい口を出したくなるんです。そのようなときは出かけるようにしています。」

「相談や親の会への出席を嫌がる子どももいるけど、“親自身のため、親自身の勉強のために行くんだよ”と話せばいいんじゃないのかな。」

連絡先 〒640-8155 和歌山市九番丁5

和歌山市教育相談センター内 青年の親の集い事務局

☎ 073 (431) 1655

和歌山メンタルヘルスニュース

県内の精神保健福祉関連の最新情報と当センターの活動をお知らせします。

(1) 精神障害者ケアマネジメント従事者研修を、精神保健福祉センターで、平成13年11月5日・7日・9日の3日間にかけて行いました。63名の出席があり、そのうち32名が市町村の職員で、平成14年度の市町村移管に対しての関心の高さがうかがわれました。申し込まれて、定員の関係上参加できなかった方にはたいへん申し訳ありませんでした。

(2) 11月14日、精神障害者訪問介護員（ホームヘルパー）講習会を実施しました。前回の講習会で、定員オーバーのため受講出来なかった方、89人が参加されました。前回と合わせて合計184人の方が受講された事になりますが、来年度からの居宅介護等事業の実施にはまだまだ十分とは言えません。今後は関係機関とも連携し、研修の体制を整備していきたいと思えます。

(3) 12月3日、メンタルヘルスセミナーを開催しました。心理カウンセラーの下口雄山先生の軽妙な語り口と自律訓練法で受講者はすっかりリラックス。日頃の疲れやストレスをしばし忘れて心地よい時間を過ごされたようです。

(4) 12月3日から、県内の精神障害者保健福祉手帳所持者とその家族を対象に、在宅福祉サービスに関するアンケート調査を実施しています。この調査は、当事者のニーズを反映し、充実した在宅福祉サービスを提供するため、関係者へ情報提供すると共に、関係者への支援方法のあり方を検討するための基礎資料とする事を目的としています。多数の方から回答をいただき現在集計中です。結果は、来年4月のセンター便りでお知らせする予定にしています。

(5) 12月21日、県下の市町村などを対象に精神障害者居宅生活支援事業関係者説明会が実施されました。健康対策課から、平成14年度からの居宅生活支援事業について、法律の改正点、事業の運営要綱等詳しい説明がありました。出席者からは多くの質問が出され、事業の実施に向けてより具体化されました。今後も様々な問題点があがってくると思えますので、その都度協議し、よりよい制度にしていきたいと思います。

(6) H14年1月11日、「和歌山アメリスト」発足記念例会が開催され、県内各地から女性酒害者の方が23人（内会員5人）参加されました。例会は、毎月第2、第4木曜日午後1時から和歌山市ふれ愛センターで開催予定。女性の酒害からの立ち直りに、大きな役割を果たしていくことでしょう。

和歌山県精神保健福祉協会入会のご案内

みなさん、和歌山県精神保健福祉協会をご存知ですか？

○ 精神保健福祉協会は、県民の精神保健福祉に関する知識の普及、啓発とこころの健康の保持増進を図るとともに、精神障害者の医療、福祉の向上および円滑な社会復帰の促進につとめることに賛同する会員の集まりです。

○ 何をしているかということ、精神保健福祉に関する普及啓発や研修会・講演会の開催、家族会の育成、関係団体の技術研修事業費等の援助をしています。

○ 入会は、精神保健に関心のある方は誰でもできます。会員の方には、会報・講演会の案内等を送付します。申し込みは、もよりの保健所か精神保健福祉協会事務局まで。精神保健福祉向上のため、多くの方の入会をお願いします。

○ 会費は、個人会員 年額1口1,000円、団体会員 年額1口10,000円です。

和歌山県精神保健福祉協会事務局

〒640-8319

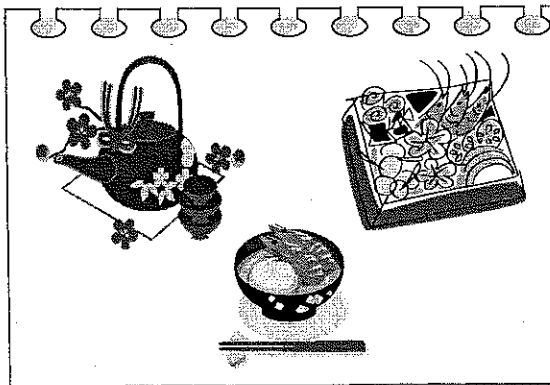
和歌山市手平2-1-2

県民交流プラザ”和歌山ビッグ愛”2F

和歌山県精神保健福祉センター内

TEL 073-435-5194

FAX 073-435-5193



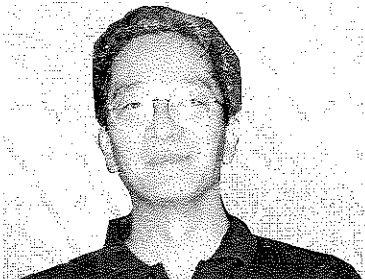
朝井所長のひとりごと

年末のこと。我が家でも「おせち」の準備に入っていた。妻が、「正月の数の子、どうしますか？お父さん。酒のあてには数の子が一番と言っていますからね…このところ、お酒飲めないですから…」と聞いてくる。買うか、止めるか迷っているようである。私の方は、正月に数の子を買うかどうかより、まだ出来上がらぬ年賀状を仕上げなければならないのだ。後10日しかない。「年賀状は今年だけだ。来年は中止する!!!」気持ちはあせるばかりで、つつい妻にあたってしまいました。

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーを作りました。

第一弾は、保健所の相談員さんシリーズです。

はーとふるネットワーク



今回は、御坊保健所の吉岡範通さんです。

— 県の保健所に就職して何年になりますか？

どーもどーも吉岡です。平成5年から県でお世話になっています。今、振り返ってみると、右も左もわからない自分を、多くの方々が支えてくれた事をありがたく思いますし、当時の事をなつかしく思い出します。もう8年も経ってしまいました。

— それまではどんなお仕事をされていましたか？

福祉系の大学を卒業した直後は、民間でコンピュータープログラマーをしていました。もうほとんど忘れてしまいましたが・・・その後、精神障害者の作業所で指導員をしていました。今でも、時々、その作業所に行きます。私がいた当時のメンバーも数人おり、なつかしくもあり、又、それぞれの成長している姿を見せてもらう時、ふわっとした柔らかな気分になります。

— この仕事をしていて良かったと思う時はどんな時ですか？

人のしんどさ、つらさ、心の痛みを直接受ける仕事です。自分なりに頑張って、その結果、いい方向に進み、その人の笑顔を見ることができた時、うれしいなあと思います。直接サービスする職種の特権ですね。

— 仕事で苦勞する点はどのようなことですか？

地域で求められる役割が変わってきているような気がしています。今まで経験のない自分にとって、新しい事、より専門的な事など果たさなければならぬ役割に対して、応えてゆくこと。まだまだできていないと思いますが、それでもしんどいなあと、ちょっと思います。

— ある芸能人に似ていらっしゃるようですが、間違えられたりした楽しいエピソードがあれば、ぜひ紹介してください。

この間、大学の同窓会のお世話係をしました。顔も見なかった先輩と電話でやりとりをし、当日一緒にいくこととなり、ローソンで待ち合わせをすることになりました。お互いにスタイル、髪型、顔の特徴などを伝えあい、私が「上岡龍太郎」に似ています、と言った時に、今までの緊張感のあったやりとりから、一瞬にして和やかな柔らかな雰囲気になりました。待ち合わせ当日、その先輩の方に、開口一番「すぐわかりました」と笑顔で言われた時、私は「ハハハ」と笑いながら、今度はキムタク似の顔で生まれてくるぞ、と心に強く誓いました。ナンノコッチャ。

— 高橋さんからの紹介にもありましたが、吉岡さんはとても愉快なお話をされますね。場を和ませる会話の秘訣を教えてください。

特に意識している訳ではありませんし、自分が愉快的話ができる人だとも思っていないんですが、人と会話する時の“間”とか“つつこみ”とかは、子供の頃、よく見ていた吉本新喜劇の影響だと思っています。花紀京と原哲夫のやりとりがとて楽しかった。復活してくれへんかしら。

— 今後の抱負を教えてください。

「日本一のお笑い芸人になる！」というのは嘘で、とにかく実力をつけたい。人様の役にたてる自分になりたいと思っています。

— 吉岡さんから次の相談員さんのご紹介をお願いします。

先輩に対して失礼かとは思いますが、精神保健福祉センターに勤めながら、ととても恥ずかしいこの企画を阻止できなかった長島さんをお願いしたいと思います。長島さん、酔っぱらったら人が変わるって聞きましたよ。どう変わるのか、今度じっくり教えてください。フッフッフ。

研修のお知らせ

嗜癪関連問題並びにこころのケア研修

日時 平成14年2月21日(木)～22日(金) 場所 和歌山ビッグ愛 1201会議室

第1日目 ・薬物依存の基礎的知識 大阪府立中宮病院 医師 藤田 治

・薬物依存症の治療について 久米田病院 医師 高 直義

第2日目 ・摂食障害の理解 小杉記念病院 院長 山田 一郎

・摂食障害への危機介入 稲垣診療所 ソーシャルワーカー 高部 美夫三

ストレス社会と言われる現在において、生活や健康におけるこころの領域の問題は年々広く深くなっています。中でも嗜癪問題は低年齢化や予備軍の増加が指摘されています。今回の研修では、薬物依存と摂食障害について基礎的な知識からその治療までを学習する事を目的としています。

わかやまこころのフェスティバル2002

テーマ「あたたか色の街がすき」

日時 平成14年3月3日(日) 場所 那賀郡貴志川町生涯学習センター(かがやきホール)

内容

- (1) コンサート 木村弓さんを迎えての「あたたか色のコンサート」(要整理券・詳細については1月末に広報予定) 映画「千と千尋の神隠し」の主題歌の作曲・唄を手がけ、養護学校、学校、病院等全国で演奏活動を展開中。
- (2) 講演会 テーマ「あたたか色の街がすき」 講師 石田易司(桃山学院大学教授) 各地で積極的なボランティア活動を展開。今回の講演では、その精力的な実践活動を紹介します。
- (3) その他、各種団体による活動紹介や展示販売、アマテラビ - 講座、バーチャルハルシネーション(障害体験)等のイベント。

こころのケア研修 テーマ「PTSDの理解」

日時 平成14年3月18日(月)

10:00~12:00 講師 交渉中

13:00~15:00 講師 国立精神・神経センター 精神保健研究所 金 吉晴

編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年は、関係者の皆様のご協力で当センターも様々な事業を実施することができました。どうもありがとうございました。今年も県内の精神保健福祉向上のためにセンタースタッフ一同、力を合わせてがんばりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。